

## 第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

屋久島町立神山小学校 教諭 澤津 奈穂子

### 1. 単元名 かわひこ広めようプロジェクト

—残したい！屋久島の産業の「味力・未力・魅力」—

### 2. 単元の目標

- ・ 伝統野菜や農業を継承することの大切さを理解し、情報を比較、分類、関連付けるなどの探究の過程に応じた技能を身に着けることができる。 (知識・技能)
- ・ 目的に応じて必要な情報を選び、見通しをもって追究し、工夫しながら筋道立てて表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 伝統野菜や農業の継承に課題意識をもち、自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。 (主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

昨年度より、鹿児島大学農学部の中野さんの協力を得て、神山小の5年生は伝統野菜作りに取り組んでいる。児童にとってもなじみが薄い野菜であるが、「伝統」を継承する、農業の大切さを広める活動を手探りで行える魅力的な教材といえる。また、社会科の農業分野、家庭科の調理実習など教科横断的に授業を展開することができる。

#### (2) 児童観

17名の児童は、3年生の総合的な学習の時間では、屋久島の特産品であるタンカンの生産に、目を向け、身近な問題であるフードロスを減らす取組みについても考えることができた。4年生では環境省レンジャーとの山・海の活動を体験し、屋久島の魅力を伝えるため、地域の商店にポスター掲示を依頼したりした。この単元の学習を通して、これらの児童が自分事として課題を捉え、主体的に考え活動し、活動を通して自己の生き方に生かすことができると考える。

#### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、伝統野菜の「かわひこ」がなぜ作られなくなっているか。そして、貴重なかわひこがどのように受け継がれてきたかを知る活動から始める。その後実際にかわひこの種芋植えから、育てていく中で、「かわひこ」を栽培を広げていくために自分たちができることについて考えていく。まず初めにPTAフリーマーケットに向け、「かわひこ」の普及活動を行う。また、調理方法を調べさせて試作、試食させる。活動を伝統的な和風料理、現代的な西洋料理、創作的なスイーツなど今後のレシピ紹介を視野に入れて作らせる。また高齢者への聞き取りを行い、農業と祭り、文化、景色や環境保

全との関連（農業の多面的機能）に気付かせ、自分たちの活動意義について再考させる。主体的に取り組ませるために、活動内容を分け、自分たちで方法を考え、交渉する経験を積ませたい。また、2学期のうちから、活動の写真をもとに掲示物やプレゼンテーションを作らせておき、機会を捉えて中間発表やまとめの発表をさせ、探究活動をした達成感を味わせたい。

#### （４） ESDとの関連

- ・ この題材で働かせる ESD の視点（見方・考え方）
  - B 相互性：産業は自然と密接な関係にあり、身近な環境や地球環境も考える必要があることを理解している。
  - C 有限性：伝統的な野菜や豊かな自然も限りがあるので、私たちが守っていく必要があるということを理解している。
- ・ この学習を通して育てたい ESD の資質・能力
  - ② システムズ・シンキング：生産者も、消費者も、屋久島も豊かになるような産業の在り方について総合的・多面的に考える。
  - ⑤ 共働的問題解決力：飲食店や企業、地域の人々と連携して伝統野菜を広める活動を行う。
- ・ この学習を通して育てたい ESD の価値観
  - ① 世代間の公正を重要視する価値観
  - ③ 自然環境・生態系の保全を重視する価値観
  - ④ 人権・文化を尊重する価値観
- ・ 達成が期待される SDGs
  - 8 働きがいも経済成長も
  - 11 住み続けられる町づくりを

#### 4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 伝統野菜や農業を継承することの大切さを理解することができる。 ② 情報を比較、分類、関連付けるなどの探究の過程に応じた技能を身につけることができる。	① 見通しをもって課題を追求することができる。 ② 「調べる」「広める」などの目的に応じて必要な情報を選び、工夫しながら筋道立てて表現することができる。	① 伝統野菜や農業の継承に課題意識をもつことができる。 ② 自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。

5 単元の指導計画（全 30 時間）

時	主な学習活動	学習への支援	評価 備考
1 導 入 ・ 課 題 の 設 定	<p>1・2（9月）</p> <p>1学期の取組を振り返り、かわひこを広めるため今後の見通しをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい食べ方を開発したい。</li> <li>・伝統的な食べ方を復活させたい。</li> <li>・バザーでかわひこの存在をアピールしたい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>どうすれば、かわひこの魅力を伝えることができるだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわひこを広める方法について、できることはないか考えさせる。</li> <li>・フリーマーケットの場でできることはないか考える。</li> </ul>	<p>イ① （思判表）</p> <p>ウ① （主体的）</p>
2 情 報 の 取 集	<p>3～12</p> <p>○学校のフリーマーケットでかわひこについて広める方法別にグループに分かれる。</p> <p>グループに分かれ、具体的な活動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画を作ってみよう。</li> <li>・グッズを作ってみよう。</li> <li>・パンフレットやポスターを作ってみよう。</li> </ul> <p>○かわひこを調理して実際に試食してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわひこの味ってどんな味かな。</li> <li>・里芋に似ているならコロッケにできるかもしれない。</li> <li>・サツマイモみたいにかわひこでスイーツを作ってはどうかろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット等を活用し、児童主体で調べたり、まとめたりすることができるようにする。</li> <li>・必要な材料は、予算を決めて準備する。</li> <li>・事前に季節外れのかわひこが手に入るよう、材料の調達をしておく。</li> <li>・達成感を高めるために鹿児島大学の中野さんや職員にも試食してもらおう。</li> <li>・家庭科担当教員と連携し、調理実習を行う。</li> </ul>	<p>イ①② （思判表）</p> <p>ウ② （主体的）</p> <p>ア② （知・技）</p>

3 整 理 ・ 分 析	13、14 (12月・1月) ○自分たちの普及活動について振り返る。 ・バザーでの活動で効果があっただろうか。 ・「かわひこ」の調理で気がついたことは何か、さらに取り組むことができることは何か。	・自分たちの活動の効果について考えさせる。 ・今後の活動について考えさせる。	イ①② (思判表)
4 ま と め ・ 表 現	15～26 収穫し、取組をまとめて発表・PRする。 ○レシピについて企業や飲食店に提案する。 飲食店やホテルへ ○かわひこの苗の販売 地域の方へ ○観光客など多くの人に提案する ○バザー収益金をウクライナへ募金	・タブレットで、1学期からの写真やレポートを活用して、複数回使用できる簡単なパワーポイントを作成させる。 ・かわひこの紹介や調理の仕方をまとめたパンフレットを作成させ、配布場所などはなるべく自分たちで考え、交渉させる。	ア② (知・技)  イ②③ (思判表)  ウ② (主体的)
振 り 返 り ・ 発 展	27～30 ○伝統野菜や農業の普及のために今後もできることを考える。 ○ESD アドバイザーの話を聞き、SDG との関連を考える。 ・学校や農家が作り続けることが大切。6年生と一緒に現在屋久島で使われていない土地でかわひこを作ることができるよう地域で働きかけていく。 ・かわひこソング作って広報活動を行う。来年度の5年生に栽培方法を伝えよう。 ・お世話になった人にお礼の手紙を書く。	・かわひこは、連作ができないため、学校だけでは続けていくことができない。使われていない土地を利用してかわひこの栽培ができるよう呼びかける。 ・地球規模での環境について考えさせる。	ウ①② (主体的)  イ② (思判表)

